



学校法人永原学園
さんこう児童クラブ通信

令和8年7月発行

— 第4号 —

【三光幼稚園】

TEL:0952-31-0753

【さんこう児童クラブ携帯】

TEL:090-7430-1312

避難訓練（万が一に備えて）

6月は学童でも避難訓練を行いました。幼稚園、保育園では毎月のように行っていたせいか、スムーズに運びました。

先週、仕事で上京中に台風が2つ通過、地震までも起きました。一緒に行った友人はエレベーターの中で地震に遭遇し、エレベーターが停まった時にはパニックになりそうだったそうです。訓練では色々な場合の対処を経験していても、いざ別の場所や地域で起きた時には大人でも混乱してしまいます。

分園（0～2歳児）で行った訓練で、避難の仕方を、標識を使ってお話をした時のことです。「〇〇な時はどうしたらいいかな？」と質問すると、2歳児の女儿が避難誘導標識を指さして、あのマークがある方に逃げたらいいと思うと応えました。文字が読めない幼児でもマークを使って理解することができることを実感しました。災害の多い昨今。ご家庭でも、万が一に備えた準備をしておきましょう。

7月の目標「友達の思いを考えよう」

言われたらどんな気持ちになるかな？
自分の思いを伝えるときはどんな風に言ったらいいかな？
困ったときは先生に相談しながら一緒に考えようね(*^-^*)

【お願い】

先月号に重ねてのお願いになりますが、まだもって来っていないお子様が見られますので、**着替えの持参**をよろしくお願い致します。

また、汗をかいてそのままにしている子もいますので、ハンカチ、ティッシュに加え、タオルをお持たせ頂けると助かります。

7月の学童児童数

	在籍者数	休所者数	利用者数	そのうち新規入所者数
1年生	16	0	16	0
2年生	12	0	12	0
3年生	3	0	3	0
計	31	0	31	0

【★今年度最初の避難訓練を実施しました★】

フリー参観代休日に水害の避難訓練を行いました。訓練前には、備蓄や簡易トイレ等、小学校の引き渡し訓練の際に学んだことを教えてくれました。それを踏まえて避難訓練に臨むことができました。残りの避難訓練は夏休みに実施予定です。今回参加できなかった子もいるため、水害の避難についても再度確認をしたいと思います。



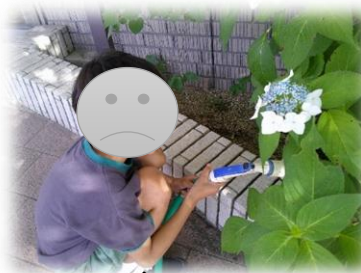
【★6月から西九州大学の学生さんが実習に来ています★】

一緒に宿題をしたりたくさん遊んだりできることに期待をもって過ごしています。「今日は(大学生)来る??」と毎日確認です(*^-^*)しばらくの間の交流を楽しんでほしいです♡



【★日頃の様子★】

玄関に咲いている紫陽花に水やり★



大きくなあれ♪

シャボン玉避けゲーム♪



折り紙で作った昆虫でトントン相撲対決！



さんこう生け花教室—！！



災害時における子どもの「こころのケア」

心理カウンセリング学科 助教 松本 麻希

近年、国内外において災害が後を絶ちません。様々ある災害の中でも、地震・津波・集中豪雨・河川氾濫といった、大規模な自然災害は、我々の生活の基盤に大きな影響を及ぼします。そして、生活面のみならず心身にも多様な影響をもたらします。

大規模災害時の『こころのケア』の重要性については、1995年の阪神淡路大震災後、我が国において社会的に広く認知されはじめ、そのノウハウも徐々に蓄積されてきています。

みなさんは、“こころの減災”という言葉を知っていますか？もし、今、ここで、大きな災害が起きたら、皆さんはどのようにして、自分自身や家族そして我が子の、身の安全とこころを守っていきますか？

避難経路を確認・共有し、防災グッズなどの備えを日頃からおこない、身を守ることと同じように、災害時に起きやすい様々なこころの反応と対応について知っておくことも、被害を最小限に抑え、こころを守るための大切な備えとなります。今回は、「災害時におこりやすい子どもたちの様々な反応とその対応」について、いくつかご紹介したいと思います。

【再現あそび(地震ごっこ、津波の絵など)】

災害体験から少し経過して落ち着いてくると、「地震が来たぞ〜!」と言って、積み木を高く積み上げては壊したり、地震や津波の絵を描いたりする“再現遊び”を始めることがあります。これは、遊びを通して、こころのザワザワを表現し、自分なりに対処しようとしている自然な反応です。危険な遊びではない限り、叱ったり無理に止めさせたりせずに、「怖かったね」「びっくりしたね」などと、声をかけ、そばで見守ってください。次第に、遊びという表現を通して自分のこころの中におさめていきます。

【赤ちゃん返り(指しゃぶり、夜尿、わがままや甘えなど)】

急にべったりとくっついて離れられなくなったり、今まで一人で出来ていたことが出来なくなったりと、より幼い行動に戻ることがあります。この行動は、何が起きたのかを理解することが難しく、安心を求めようとする自然な反応です。「自分でできるでしょ!」と叱咤激励するのではなく、「そばにいるから大丈夫だよ」「一緒にやってみようか」と声をかけ、安心感をもてるよう温かく対応しましょう。

【過剰適応(頑張りすぎる/よい子でいようとする)】

他者を過剰に心配したり、周囲に気を遣いお世話をしたりと、自分のことを省みずに頑張りすぎる子もいます。これは、頑張ること(≡気を張ること)で自分に起こった現実(ザワザワした気持ち)から逃避しようとしている場合もあります。見守りつつも、その子なりのストレス発散の機会や場所を確保し、こころを休ませていくことも大切です。

